



関西大学

# 大阪都市遺産研究センター

## NewsLetter

No. 13 2015 年 3 月 19 日

### 目次

道頓堀フォーラム in 東京	1
早稲田大学演劇博物館でのコラボ展「芝居町道頓堀の風景」	2
写真展「大阪のてっぺん 能勢の文化遺産」開催	2
新収蔵資料展を開催	2
特別講演会「新出！江戸後期浪花名所図屏風」を開催	3
「道頓堀五座の風景（動画）」浜側（道頓堀川）から芝居小屋へ編を公開	3
「大阪の劇場大工 中村儀右衛門資料」大道具帳データベースを公開	3
新刊紹介	4

### 道頓堀フォーラム in 東京

2015 年 1 月 24 日に関西大学東京センターで「芝居町道頓堀の風景－大道具師 中村儀右衛門と芝居画家 山田伸吉－」が開催された。センターが進めてきた「芝居町道頓堀の景観復元プロジェクト」の成果を東京の方がたに紹介することを目的に開催されたフォーラムでは、長谷洋一研究員「山田伸吉の生涯と画業」、林武文研究員「大正期道頓堀の CG 復元」、橋寺知子研究員「中村儀右衛門資料の劇場図面」、高橋隆博研究員「芝居まち道頓堀－いま・むかし－」のほか、早稲田大学演劇博物館副館長の児玉竜一氏による「歌舞伎の演出と大阪の舞台美術」というラインナップで、現在では「食い倒れの町」を代表する道頓堀が、かつて芝居町として人びとを

魅了していた頃の風景をたどり、参加者は熱心に聞き入っておられた。

フォーラムの前週と当日には、パネル展「芝居町道頓堀の景観復元をめざして」が開催された。中村儀右衛門資料の図面類（複製）や「幻の浪花座」模型（1/60）、壁面に展示された山田伸吉の舞台背景画デッサンが、大正 3 年（1914）の開業当時の姿に甦った東京駅を眼下に見下ろす部屋を飾った。

なお、フォーラムは、関西大学創立 130 周年記念特別研究費（なにわ大阪研究）および第 43 回（平成 26 年度）三菱財団人文科学助成を得て開催された。

（特別任用研究員 櫻木 潤）



## 早稲田大学演劇博物館でのコラボ展「芝居町道頓堀の風景」

関東大震災による資料の散逸を怖れた坪内逍遙によって設立された早稲田大学演劇博物館は、演劇研究のメッカである。2014年12月18日から2015年2月4日まで、同館で、関西大学と早稲田大学との連携協力協定にもとづき、道頓堀フォーラム in 東京の関連行事として展覧会が開催された。センター所蔵の中村儀右衛門資



料と山田伸吉関係資料から選りすぐりの作品20点余りが、常設展の一画に展示された。会期中は、企画展「寄らば斬るぞ！新国劇と剣劇の世界」が開催されており、同館所蔵の道頓堀ゆかりの品々や当時の映像資料とともに、明治から大正、昭和の芝居町道頓堀の風情が甦った。  
(特別任用研究員 櫻木 潤)



## 写真展「大阪のてっぺん 能勢の文化遺産」開催

平成26年12月17日から平成27年1月25日にかけて、浄るりシアターにて、写真展「大阪のてっぺん 能勢の文化遺産—大阪歴史博物館所蔵 三村幸一撮影



写真から—」を開催した(主催：大阪歴史博物館・能勢町・センター)。

この展覧会では、写真家・三村幸一が1960年代に撮影した能勢の祭り・行事を中心に、39点の写真を展示した。また、関連行事として、黒田一充研究員による写真解説「三村幸一が撮った能勢の祭り・行事」を開催した。会期中、能勢町にお住まいの方をはじめとして、多くの方がたにご観覧いただき、地域の祭りや伝統行事について考える良い機会となった。

(P.D. 中尾 和昇)

## 新収蔵資料展を開催

平成26年12月1日から平成27年1月17日にかけて関西大学博物館特別展示室において、冬季企画展「新収蔵資料展」(関西大学博物館・関西大学泊園記念会との共催)が開催された。

大阪都市遺産研究センターからは、センター所蔵の山田伸吉関係資料に加えて、新たに山田のご遺族から寄贈を受けた油彩画や芝居画版木、長谷川幸延『大阪芸人かたぎ』の装幀及び挿絵原画、さらには妻である東條薫のために山田が虫文様を描いた帯なども展示した。

この展示では、当時の舞台写真や舞台背景デッサンなど道頓堀や松竹座、芝居に関する資料のほか、これまで

知られなかった油彩画や木版芝居画の版木など山田の新



たな画業を知る上での貴重な資料を初公開した。特に自画像をはじめとする油彩画は山田の二科展への出品作を知る上で大きな手掛かりになるもので、松竹座座付き美術家の評価だけでなく、洋画家でもあった山田伸吉の再

評価を促すことになった。

会期中の12月6日には長谷洋一が列品解説を行い、会期を通して計4,382名の来場者があった。

(センター研究員 / 文学部教授 長谷 洋一)

## 特別講演会「新出！江戸後期浪花名所図屏風」を開催

平成26年10月18日、特別講演会「新出！江戸後期浪花名所図屏風」が開催された。この講演会は、本センター学外研究員のフランチスカ・エームケ氏（ドイツ・ケルン大学名誉教授）が、新出の「江戸後期浪花名所図屏風」を紹介するものであった。

この新出屏風は六曲一双で、エームケ研究員の調査によると、画面一杯に大坂各地の名所が描かれており、その景観年代は天保年間（1830～1844）と推定されることである。またエームケ研究員は、本屏風に描かれる景観の半分近くが、安政年間（1854～1860）に刊行された『浪花百景』に取り上げられる内容と共通することを指摘し、このことから屏風の制作年代は、ほぼ安政年間と見てよいのではないかとの見解を述べた。

その他に本講演会では、屏風に描かれた名所について代表的なものが紹介され、当日参加した99名の聴講者

が、エームケ氏の講演を熱心に聞き入った。新出の屏風を紹介する講演会のため、開催が急遽決定され講演会の広報期間は十分でなかったにもかかわらず、当日はホールを満員にする聴講者が詰めかけた。

(特別任用研究員 内田吉哉)



## 「道頓堀五座の風景（動画）」浜側（道頓堀川）から芝居小屋へ編を公開

関西大学大阪都市遺産研究センターでは、平成26年10月より、大正期の道頓堀を復元したコンピュータグラフィックスの新しい動画を公開した。

道頓堀は、17世紀以来、歌舞伎や浄瑠璃の小屋が建ち並ぶ「芝居町」であった。道頓堀の通りのうち、堀川に面した側には多くの芝居茶屋が営業しており、川から船で乗り付けることができる構造になっていた。また現在も行われる歌舞伎役者の「船乗り込み」でも、船に乗ってやってきた役者が堀川から道頓堀の岸に上がり、劇場に入る儀式が行われる。道頓堀の芝居町文化において、大坂市中を流れる堀川は不可分の関係にあった。

こうした堀川側のことを「浜側」と呼ぶが、新しいコ

ンピュータグラフィックスでは、道頓堀川をゆく川船から芝居茶屋のある岸につき、「浜側」から道頓堀の往来へ上がってゆく景観を再現している。このコンピュータグラフィックスは、本センターのウェブサイトで見ることが出来る。

(特別任用研究員 内田 吉哉)



## 「大阪の劇場大工 中村儀右衛門資料」大道具帳データベースを公開

本センターでは、人文学・建築学・情報工学にまたがる学際的研究により、芝居町道頓堀の景観復元プロジェクトを進めている。本センターが所蔵する「大阪の劇場大工 中村儀右衛門資料」は、明治から大正にかけて大阪で活躍した大工棟梁、中村儀右衛門に関する資料群で

ある。本資料には、彼が手がけた、道頓堀を中心とする大阪の劇場の建築図面や仕様書、日記、覚書などが含まれている。明治以降の道頓堀を中心とする、大阪の劇場建築の様相を知ることができる、きわめて貴重な資料である。

本センターは、第43回（平成26年度）三菱財団法人科学研究助成を得て、「大阪の劇場大工 中村儀右衛門資料」のうち、「大道具帳」のデータベースを制作し、センターのウェブサイトにて公開した。データベースでは「大道具帳」の全面像と書誌情報が閲覧可能で、劇場名や興行が打たれた月、キーワード等から書誌情報を検索することもできる。

（特別任用研究員 内田吉哉）



## 新刊紹介



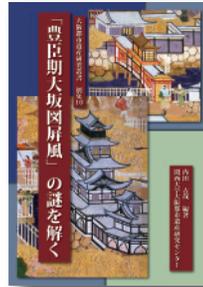
朝治啓三編著『住友文庫ドイツ医学学位論文目録 第四巻』（大阪都市遺産研究叢書 別集4-4、関西大学大阪都市遺産研究センター、平成27年1月31日）



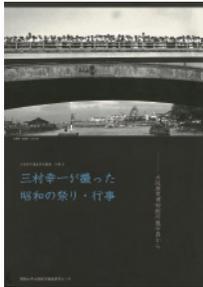
長谷洋一・櫻木 潤編『山田伸吉の生涯と画業』（大阪都市遺産研究叢書 別集9、関西大学大阪都市遺産研究センター、平成27年3月19日）



高橋隆博・黒田一充・長谷洋一監修、中尾和昇編『名所図会をめぐる大阪—摂津Ⅱ・河内・和泉—』（大阪都市遺産研究叢書 別集7、関西大学大阪都市遺産研究センター、平成27年1月7日）



内田吉哉編著『「豊臣期大坂図屏風」の謎を解く』（大阪都市遺産研究叢書 別集10、関西大学大阪都市遺産研究センター、平成27年2月28日）



黒田一充・吉野なつこ編『三村幸一が撮った昭和の祭り・行事』（大阪都市遺産研究叢書 別集8、関西大学大阪都市遺産研究センター、平成27年1月25日）



高橋隆博・黒田一充・長谷洋一監修、水田憲志編『水都大阪の景観変遷—1880～1960—』（大阪都市遺産研究叢書 別集11、関西大学大阪都市遺産研究センター、平成27年3月19日）



高橋隆博監修・内田吉哉編『竹生島寶蔵寺調査報告書』（関西大学大阪都市遺産研究センター、平成27年2月28日）

## 関西大学大阪都市遺産研究センター NewsLetter No. 13 2015年3月19日発行

発行・編集 関西大学大阪都市遺産研究センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学博物館内

TEL 06-6368-0095 FAX 06-6368-0092

<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/>

mail [osaka-toshi@ml.kandai.jp](mailto:osaka-toshi@ml.kandai.jp)

